

DD NEWS LETTERS

No.12

84 21 1 月 20 日

The Center for Southeast Asian Studies

Kyoto University

ドンデン村の畜産；

水牛、牛の生産概要について

1983年9月17日から11月12日までドンデン村に滞在し、家畜生産体系について調査を行い、その一部がまとまったのびンゴに報告します。

水牛、牛の飼育形態はほぼ同様で、朝一いつかの農家で夜明け前後一フィールドに連れて行き、夕方日暮とともに家に連れて帰る。今回の調査期間である雨期の終りから乾期の始めまでの水牛、牛ともにフィールドでは15~20mの細いコナツでこれらの家畜を灌木の端につなぎその範囲内の草を採食させるとともに近くから野草を刈り取り家畜に与えることも行なわれている。2日間の調査では殆んどすべての水牛、牛、すなわち96.5%の水牛、97.9%の牛は日中、屋外でのけい牧方式により飼育されていた。日中屋敷内で飼育されている割合は雌の方が雄より高く、成雌水牛では4.4%、雌子水牛2.8%であるのに対し

成雄水牛は0.7%、雄子水牛は0%であった。雌水牛では妊娠、分娩等により屋敷内での飼育割合で若干とも高くつらうであろう。

水牛、牛、馬、豚の飼育頭数は表1に示しているように、水牛は118戸の農家一全戸数に對して68.6%一で飼育されており、全頭数は342頭、1戸当たり平均2.90頭になっている。1981年に比べ1983年には飼育戸数では変化がないが頭数は増加している。

表1. 家畜飼育戸数と頭数

	飼育戸数		飼育頭数	
	1981	1983	1981	1983
水牛	119	118	223	342
牛	24	18	62	68
馬	25	9	37	16
豚	25	10	25	26

牛は殆んどが毛色の白い大型のフラーマン系品種とつらっており、従来タイに多くいた褐色毛で小型のNative牛は今回ドンテン村では見られなかった。これはNative牛からフラーマン

牛への転換を目差す国策と人工授精の普及にともなうものであろう。牛を飼育している農家は18戸、全頭数は49頭、全農家に対する牛飼育農家の割合は10.5%、1戸当り平均飼育頭数は2.67頭であった。

表2. 家畜飼育頭数当り農家数

	1	2	3	4	5	6	7	8	12
牝牛	23	18	29	22	4	9	3	1	0
牛	5	2	1	3	0	0	0	0	1
馬	2	6	0	0	0	0	0	0	0
豚	1	3	1	3	0	1	0	0	0

雌雄別の飼育割合は表3に示されるごとく子水牛では余り差はなかったが、成水牛の雌は雄の2倍の多さになっていた。また、牛については成牛は全部雌であり、子牛でさえも殆んどが雌であった。これは人工授精の普及により雄牛飼育の必要性が減少してきたこと、雌を飼育し、子牛を産ませ、畜財や販売を

しようとする目的を村人がより一層明確に持
 ってきているためであろう。馬、豚について
 の記述は今回省略するが、目立つ点として
 は1981年に比べ1983年では馬の飼育農家数、
 飼育頭数の減少である。

表3 水牛、牛の雌雄別飼育頭数

	成水牛・牛		子水牛・牛	
	雄	雌	雄	雌
水牛	70	149	59	64
牛	0	33	1	14

次に42戸の農家で水牛飼育、18戸の農家で
 牛飼育について、より詳細な調査を行った。
 42戸の農家の全水牛飼育頭数、雌雄別頭数、
 子水牛生産頭数は表4に、牛のそれぞれにつ
 いては表5に示した。水牛の飼育頭数は増加
 傾向にあり1977年と1983年を比較すると約1.5
 倍の増頭であった。その内分庁を見ると去勢
 雄水牛を含む雄水牛の数は低下しているが、
 成雌水牛は2倍以上増加している。それにと

おなじ子水牛の生産頭数も3倍以上増加して
いる。一方、牛の飼育頭数は1977年から1983
年まで一定の傾向は見られなかった。水牛と
牛の違いについては表5に示しているように
牛は水牛に比較してやや価格が安い。農耕用
には殆んど使用されていはいなどの点があり、
これらが牛の頭数増加を抑えてきた原因では
なかろうか。

表4. 年次別水牛 育頭数と

子水牛生産頭数

	年						
	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983
水牛飼育頭数	94	104	109	105	110	124	144
成雄水牛(去勢水牛を含む)	36	35	37	29	28	21	26
成雌水牛	26	22	35	42	44	58	61
子水牛生産頭数	—	8	7	10	17	18	28

水牛販売頭数では1979、1980年は他の年よ
り2倍近い増加がある。(表6)。1979年は
洪水によりドンテン村に被害が及んでおり、現

表5、年次別牛飼育頭数と子牛生産頭数

	年						
	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983
牛飼育頭数	30	25	42	58	32	36	37
成雄牛(去勢も含む)	2	0	0	0	0	0	0
成雌牛	23	15	21	20	7	21	23
子牛生産頭数	-	5	9	7	4	11	3

金収入の必要性がより強くでてきたためにこのような数字に上ったものと思われた。またこの兩年には水牛購入頭数も増加しているが被害の少なかったかあるいは上った農家が購入したものであろう。水牛、牛は何事もない平年においても貴重な現金収入源であるがこのように洪水、旱魃等の非常時の場合にはその役割りを特に発揮するのであろう。

平均すると水牛の販売価格は購入価格よりも低い。年を追うに従って販売価格の上昇が見られた。諸物価の上昇にともなう水牛価格の上昇も一つの要因であろうが、購入価格の方には必ずしも上昇傾向ではなかった。従って

7. 農民の販売技術一歩しでも良い水牛を
 くり高く売る一の向上の結果と見ることは
 まばいであろうか。水牛程ではたいが牛にお
 いても販売価格の上昇傾向が見られた。水牛
 牛とわに販売頭数は購入頭数よりかなり多く
 これほどンテン村が家畜生産地としての役割
 リを探していろことを示している。

表6 水牛 牛販売購入頭数と価格

	1977	1978	1979	1980	1981	1982
水牛販売頭数	9	13	21	19	10	12
(バツ) 1頭当り価格	3344	3415	4529	4763	5050	6433
購入頭数	3	7	14	9	5	11
(バツ) 1頭当り価格	7333	5329	4231	5300	5320	4782
牛販売頭数	15	2	10	13	11	6
(バツ) 1頭当り価格	4067	3250	3430	3738	4300	5333
購入頭数	2	4	9	2	1	4
(バツ) 1頭当り価格	4600	5118	2522	3500	6000	5100

表7 水牛、牛の雌雄別販売価格				
	水牛		牛	
	雄(去勢含む)	雌	雄(去勢含む)	雌
販売頭数	58	23	12	47
1頭当り ^(バニツ) 価格	5079	3526	3791	4277
購入頭数	26	24	—	26
1頭当り ^(バニツ) 価格	5846	4444	—	4558

表7に水牛、牛の販売、購入頭数を示しているが、ドンテン村では販売や購入時に雄、雌を含めて複数の家畜を取り引きする場合があります。そのようケースは表7の頭数、価格から除外した。水牛では販売、購入とも雄の方が雌より高い値段がついていた。現在また労役用として雄水牛の価値があるためであるが、耕運機の導入にともないこのような価格差がたつたか逆転する可能性はある。牛は雌の方が雄よりも高く、水牛の雌よりもやや高い値段となっていた。水牛、牛ともに購入価格は販売価格よりもやや高い値となっていた。

最後になりますが、水牛、牛の生産率は成雌水牛、延べ264頭、生産子水牛39頭で33.3%、成雌牛延べ98頭、生産子牛39頭で39.5%と行った。水牛、牛ともに雌畜は大体3年に1頭の割合で子水牛、子牛を産むことによるが、畜産技術の点から言えば生産率の向上が望まれるところである。一方幼畜の死亡率を見ると水牛では88頭の生産子水牛中11頭の死亡で12.5%、牛では39頭中1頭死亡で2.6%であった。これらの数字は獣医師も来ない村として予想外に良い成績のように思われた。

以上簡単、粗雑ですが、今までにまとめるところを記しました。非常に有意義で楽しいドンデン村での生活を送らせて頂いたことを、石井先生、福井先生以下日本人仲間、タイ人の協力者に心より感謝致します。

矢野 秀雄